

平成21年度

福祉文化セミナーin燕三条～地域における福祉実践を考える～ 《報告》

(報告者)北陸ブロック理事:五十嵐真一



1. 開催日 平成22年2月6日(土)

2. 会場 県央メッセピア4階大会議室

3. 参加者 115人

4. 内容

○基調講演 「社会福祉施設における高齢者虐待についての一考察

—職員配置基準に焦点を当てつつ—

講師:李 相済氏(聖トマス大学准教授)

○パタカラ体操(主に高齢者の嚥下障害を予防するための体操)の実演

指導:松原 徹氏(NPO法人音楽の砦主宰)

○パネルディスカッション「多様な人々を地域で支えるために」

パネラー:佐々木 勝則氏(特別養護老人ホーム桜井の里理事長)

:渡邊 豊 氏(日本福祉文化学会事務局長)

:鈴木 守幸 氏(NPO法人宮城福祉オンブズネット「エール」)

コーディネーター:高橋 是司 氏(社会福祉法人つばめ福祉会専務理事)

5 会場の様子や雰囲気・反応等

当日はあいにくの大雪で県内は、JRやバスが全て運休し、高速道路が通行止めという最悪の天候に見舞われましたが会場は、100人を超す参加者が熱心に基調講演やシンポジウムを聴講し、ノートを取るなどしていました。また、パタカラ体操も全員が楽しく体験しているように感じました。

当日のアンケートを見ても回答した全員が本研修についての総合評価を「大変良い」か「良い」と評価し、自由記載欄にも、「李先生の話も他のパネラーの方の話も大変勉強になった」(50代女性)や「李先生の話がわかりやすかった」(20代女性)、「李先生の話が面白かった」(30代女性)、「人が人を支援することの難しさを痛感した」、「これから更に勉強しないといけないと思った」、「とても参考になった。パネラーが色々な視点で発表してくれ、業務でも実践できると思う」(40代女性)、「笑顔を大切に人と接していきたい」

(30代女性)、「パタカラ体操も珍しく楽しかった」(40代男性)、等の好意的な意見の記載が多くありました。

一方で「次回は開催時期を雪の無い時期にしてほしい」(40代男性)、「1～2月の開催はしない方がよい」(40代女性)の意見がありました。また、今後受講したい研修として「介護施設におけるターミナルケアについての講演を是非聞いてみたい」(20代女性)との意見もありました。